

主に要介護者の機能改善・再生・維持(残存機能の維持・改善の観点から)と
そのための管理(介護者・管理者側にも)

医療用HAL(ML-05)、非医療用HAL(FL-05)

重介護として、通常よりも遥かに早く身体機能が低下する要介護者である進行性の脳神経・筋難病疾患の方を対象とできるように、脳・神経・筋系情報を処理するサイバニックインタフェースを搭載した装着型ロボット(HAL:脳神経・筋系の機能改善を行うロボット)を医療機器として活用できる水準にするとともに、HALからの情報取得技術に加え、基礎研究と検証を実施。情報授受を行う新しいシステム開発を推進している。これにより、人間が介在しないでも人間の脳神経・筋系からの身体的・生理的情報が取得できるようになる。当該システムの展開は、**G7でのGlobal Healthの取り組みへ**とつながっており、世界戦略的観点から、**国際Harmonizationへと展開**されていくことになると期待される。

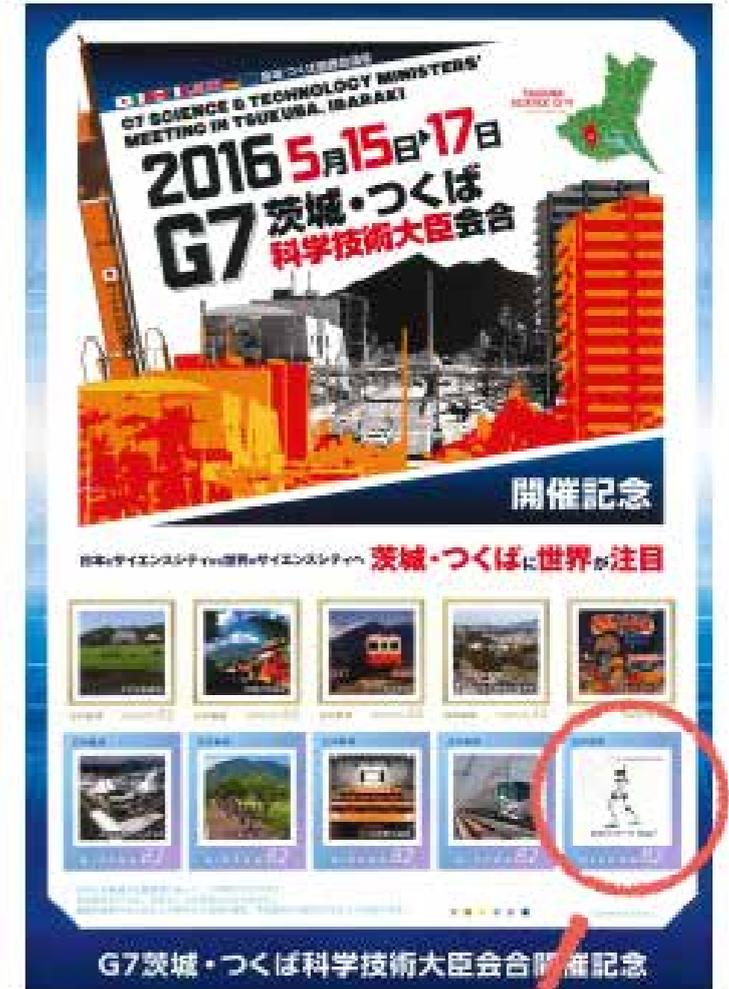


G7 科技相会合「高齢者の健康増進にロボット」

先進7か国（G7）科学技術相会合が15日、茨城県つくば市で開幕した。

高齢者の健康増進を支える科学技術の促進、革新的エネルギー技術の開発、女性研究者の活躍推進などがテーマで、16日から実際の議論が始まり、17日に「つくば共同声明」を採択して閉幕する。

この日は、各国の代表らが参加した記念シンポジウムがつくば市で開かれ、身体機能を補助する装着型ロボットを開発した山海嘉之・筑波大教授らが講演した。会合で議長を務める島尻科学技術相は、健康増進には「医療、製薬だけでなく、ロボット技術を積極的に導入することが大切だ。成功事例を各国で共有していくことを、共同声明に盛り込みたい」と話した。



■今後のロードマップ ImPACTプログラムH26.6.24～H30.12 (主なもの)

(実際には、基礎研究開発・試作・検証・実展開がスパイラルを描くようにそれぞれの研究開発段階でフィードバックを繰り返しながらプログラムを推進する。)

H28.8-H29.3

- ・介護施設でのHAL腰タイプ等の開発と実証
- ・バイタルセンサの開発と検証
- ・小型HALの開発

H29.4-H30.3

- ・HAL腰タイプの社会実装とデータ転送試験
- ・バイタルセンサの社会実装とデータ転送試験

H30.4-H30.12

- ・社会実装として、重介護者がいる実フィールドで各種サイバニックシステムを検証・実証

- ・世界からサイバニックシステムによるデータ集積を開始

- ・社会実装として、重介護者がいる実フィールドで検証・実証

- ・重介護者の機能再生・機能改善のための異分野融合技術の検証

- ・サイバニクス技術の基盤強化と産業競争力強化のための各種要素技術

- ・政府等からの要請に応じたオリンピック/パラリンピックへの対応視野に

- ・要重介護者へのHALの適用拡大による基礎データ収集と対応技術の開発

- ・データ集積と解析用システムの構築

人に対する情報的・物理的インタラクションとサイバニクス技術・革新的サイバニクスシステムを融合複合する「革新的サイバニクス技術・革新的サイバニクスシステム」の実現へ！

「重介護ゼロ社会」の実現へ！